

(様式1)

学校番号				
3	4	0	0	6

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 7年 3月 6日
札幌市立東白石中学校

1 今年度の重点目標

『知・徳・体のバランスのとれた生徒』の育成推進に向け、「地域」とともに「多様性・包括受容性」を育む取組「チームトンパク」	
i	情報の共有化 → 伝達は2方向以上、教職員間の会話の重視
ii	一人で抱え込まない → 個＜学年＜部＜教頭＜校長
iii	共によりよき学校を目指し、困難を分かち合う同僚性を大切に
iv	校務、学年、親睦会を超えたコミュニケーションを大切に
v	パートナー校との連携による連続した教育を大切に
vi	PTAや地域との融和を進められるチーム意識

2 今年度の経営方針

(1) 働き方改革
(2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実
(3) 「学ぶ力」の育成
(4) 「豊かな心」「健全な人間関係」の育成
(5) 「健やかな体」の育成
(6) 地域とともにある学校づくり
(7) 「信頼される学校」の創造

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(1) 働き方改革	校務や学年、学校行事等の資料の管理をすることができている。学校行事の精選を推進することができている。	A	チームとしての仲間意識をもち、改革へのアイデアを創出することに努めた。また、各担当者が中心となり管理を進めた。「合唱活動」について、負担のかからない範囲で今までの伝統を継承することができた。	A	A
	ICT機器を効果的に活用することができている。スケジュール管理による効率化ができている。	A	クロムブックを利用したオンライン学習やスケジュール管理等をより有効的に実施することができた。今後も更にデジタル媒体の保管を進めていく必要がある。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】情報資産の取り扱いについては、今後も細心の注意を払っていくことが必要である。				
(2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実	生徒の居場所づくり(相互承認、いじめ撲滅、後ろ向き発言排除等)ができている。	A	Q-Uを継続的に実施し、その結果を活用することができている。これからも生徒たちの居場所づくりを目指していく。	A	A
	個々の生徒の困り感に応じた対応(支援計画の共有、合理的配慮)ができている。	A	相談活動による状況把握と、学年内や生徒指導部会、いじめ防止対策委員会等での情報の交流を継続し、今後もより良い支援の在り方について検討していく。	A	A
	温かなつながりを感じるあいさつが飛び交う学級・学年・学校づくりができている(心理的安全性)。	A	毎朝、生徒が登校する場面で、多くの教員が挨拶を交わすことから1日を始められるようにしている。下校時の声掛けも可能な限り行っている。今後も学年や学級、個々の生徒へのアプローチを推進していく。	A	A
	先を見越した計画的な工夫で、生徒が主体となっている活気ある生徒会活動ができている。	A	文化祭準備の活動時間を通して、生徒個々の活躍する場面を作ることができた。また、生徒の声を生かした自主的な活動を実施することができた。	A	A
	学びの支援委員会の機能が充実している(SCや相談支援パートナーとの有機的な連携、学べる環境の整備)。	A	担当教諭が調整し、学びの支援委員会とSCや相談支援パートナーがうまく連携し、整備することができた。今後も継続して取り組んでいく。	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(2) 「居場所づくり」、教育相談機能の充実	不登校対策の組織的な推進ができています(各学年教育相談・不登校対策係・ICT学習支援)。	A	定期的に学びの支援委員会で全校的な状況把握とSCからの助言を得ている。必要に応じて情報教育委員会や外部の関係機関と連携することもできている。今後も学年が中心となり、日常的な対応を行っていく。	A	A
	いじめ防止基本方針に則った指導、命を大切にしている指導が充実している。	A	シャボテンログや毎日の生徒の生活記録を通じた情報収集、定期的に行う生活アンケートや相談活動を活用し、学級担任を窓口とした学年体制でのサポートを継続している。	A	A
	定期的な教育相談と即時的な教育相談を大切にすることができている(発達支持的生徒指導、課題早期発見対応)。	A	5月の連休明け、夏休み明けに相談期間を設定し、生徒理解・即時的な対応に努めた。しっかりと時間をかけて相談活動が行えるように5時間授業を設定した。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】子どもたちの「居場所づくり」は、小学校や家庭との連携、学校教育活動についての家庭の理解と協力があってこそ成立するものである。				
(3) 「学ぶ力」の育成	子どもの学びを中心とした確かな学力を定着させるために、課題探究的な学習を取り入れることができている。	A	生徒に学習課題を意識させ、解決していくことで、確かな学力の定着を目指している。	A	A
	学習意欲向上への組織的・効果的な対応が充実している(家庭学習や放課後学習の推進等)。	B	学習サポートの導入を通して、個々の生徒に対してアプローチを行った。今後も、不登校生徒や休校日のICTを活用した支援を考えていく。家庭学習の習慣化については、家庭および学校からの継続したアプローチが不可欠である。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】家庭学習も含めて「主体的に学習に取り組む子どもたち」を育てるために、今後も学校と家庭双方からの働きかけが不可欠である。学生ボランティアの活用も効果的に行えるとよい。				
(4) 「豊かな心」「健全な人間関係」の育成	情報の共有化と全職員による生徒の育成(言葉を大切にする・相互に承認する等)ができている。	A	共有掲示板の活用を通して、各学年の生徒情報の共有を円滑に行い、そこで得た情報をもとに生徒への対応を効果的に進めていくことができた。	A	A
	生徒会活動の充実、主体的・自治的な文化の構築ができている(プラスのまほう、自治的な活動)。	A	活動の制限が少なくなり、活動が活発になってきている。生徒会組織が中心となったボランティア活動等を、今後も進めていく。	A	A
	自分らしく生きるとともに、多様な価値観を認め合う活動ができている(みんな違う、けれど仲間)。	A	旅行的行事の取組やキャリア教育を計画的に推進し、一人一人のキャリア形成と自己実現を教育活動全体で支えている。	A	A
	包括受容的な教育が推進され、特別な配慮・合理的な配慮を伴った対応や取組がなされている。	A	教科指導や日常的な活動において、可能な範囲で交流し、通常学級と特別支援学級の連携を構築し、互いに対する理解を深めている。今後もインクルーシブの観点から生徒への啓発を推進していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】今後も、生徒情報の共有および生徒への対応を効果的に進めていくことが不可欠である。				
(5) 「健やかな体」の育成	生徒にとって清潔で潤いのある教育環境づくりができている。	A	用務員・外部業者の清掃活動に加え、生徒の清掃活動も行っている。今後も教育環境の整備を心がけていく。	A	A
	食育を通じて自らの健康に関心をもたせることができています(親学校と連携しながら)。	B	白石中の栄養教諭の指導の下、給食を通して、食への関心が高まる資料提供が行われている。小中一貫教育の「体」プロジェクトによる交流・実践も推進する。	A	A
	「命の大切さ」や「生命尊重」等の感情を育てることができている。	A	道徳の授業を通して、命の問題に取り組んでいる。また、隔年で助産師による講話の実施を継続している。	A	A

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
(5) 「健やかな体」の育成	自ら進んで運動に親しむことができる機会の提供ができています。(授業、レク、行事、休み時間等)	A	学校・学年単位での体育的行事や、昼休みの体育館開放が実施できる等、少しずつ改善されている。部活動への加入を奨励する取組も実施している。小学校との連携も図り、計画的に運動に親しむ環境づくりを目指していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】「食」に関しては、家庭への啓発や連携の充実が不可欠である。シャボテンログによる状態把握・働きかけもできるとよい。				
(6) 地域とともにある学校づくり	小中一貫した教育グランドデザインが共有され、パートナー校と連携した9年間にわたる学びや育ちに係る活動が行われている。	A	「自信をもった姿での巣立ち」を目指す生徒像として共有し、「知」「徳」「体」のプロジェクトによる取組を継続している。小学校との情報交流や研修をさらに進めていく。	A	A
	PTA活動が充実している。	A	少しずつ、実施可能な活動を行っている。文化祭バザーや研修会等も継続して実施することができた。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】今後も、地域に開かれた学校づくりを目指していってほしい。各行事で頑張る子どもたちの姿もぜひ見てみたい。				
(7) 「信頼される学校」の創造	評価・評定、テスト問題作成等の細心の注意と工夫を行い、説明責任を果たすことができています。	A	評価評定研修会を通して、効果的に研修をすることができた。テストについては、教科の特性にあわせて、改善していくこととした。	A	A
	指導と評価の一体化、妥当性・信頼性を高める評価のオリエンテーションと授業改善を行うことができています。	A	年度当初のオリエンテーションで、評価資料・評定方法の具体を伝えることにより、生徒自らが学習に取り組む意欲に繋がっている。保護者との共有も大切にしている。	A	A
	学校評価、学校関係者評価による改善・見直しを実施することができています。	A	職員で学校評価を共有し、今後の見通しを意識した実践を心がけた。	A	A
	学校ホームページの充実、および学校便り、各種お便りによる発信ができています。	A	ホームページの活用、保護者メールの活用等を通して、情報発信を心がけた。学校便りの内容に工夫を凝らした。今後も連絡用アプリの有効活用に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	【参考】今後も、家庭との連携、学校教育活動についての家庭の理解と協力を得ながら、「信頼される学校づくり」を目指していってほしい。				